

## はじめに

世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、昨年1月以降全国に拡大し、和歌山県においても同年2月に初めて病院での感染が確認されるとその後も急激な増加と緩やかな減少を繰り返し、社会活動の制約を余儀なくされました。

そのような状況において環境衛生研究センターでは、関係機関の協力のもと人員の増強や検査機器の増設などにより迅速かつ正確な検査を実施し、検査数が増加した場合でも正確な検査業務を継続できるよう体制を強化し、感染拡大の防止と社会経済活動への影響の低減に貢献してきました。

また、環境分野においても平時から災害発生時を想定した環境汚染物質の迅速モニタリング手法の開発等の調査研究にも取り組むなど環境衛生研究センターは、和歌山県の環境行政や保健行政を科学的・技術的に支える中核試験研究機関として、試験・検査、調査研究業務や技術指導・研修及び情報の収集・解析・発信を行うほか危機事象が発生した場合にも迅速に適応できるよう日々業務を行っています。

その他、衛生研究部では、食中毒や感染症の原因である病原微生物の検査、農産物や食品中の残留農薬、食品添加物、放射能等の検査を行うとともにそれらに関する調査研究に取り組み、その成果を地域の保健衛生対策に反映しています。

さらに環境研究部では、工場・事業場排水や公共用水域の水質調査、大気・放射能等を測定し、環境保全に貢献しています。

今後も、県民が健康で安心して暮らせる生活環境の保全や突如発生する環境・健康危機管理事案にも的確に対応できるよう、より一層研鑽に励み、技術レベル向上に努めてまいります。

ここに、令和2年度の業務概要と調査研究の成果を「和歌山県環境衛生研究センター年報（第67巻）」として取りまとめましたので、御高覧いただき、今後とも皆様の御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 3年12月

所長 脇阪 達司